

まゆつばサステナビリティ報告書

【提出書類】	まゆつばサステナビリティ報告書
【根拠条文】	CSRD (Directive (EU) 2022/2464) とかいろいろ
【提出先】	まゆつばラーメンカフェうなぎ。等
【提出日】	2025 年 4 月 30 日
【事業年度】	サステナブルなため不詳
【ブログ名】	まゆつばラーメンカフェうなぎ。等
【英訳名】	Mayutsuba Ramen Café Unagi. etc.
【代表者の役職氏名】	本報告書作成者 まゆつば
【本店の所在の場所】	http://ramencafe.net/
【電話番号】	—
【事務連絡者氏名】	まゆつば
【最寄りの連絡場所】	http://ramencafe.net/
【電話番号】	—
【事務連絡者氏名】	まゆつば
【縦覧に供する場所】	まゆつばラーメンカフェうなぎ。等 (http://ramencafe.net/)

Based on the
Clarified Quality.



まゆつばサステナビリティ報告書

2025 年 4 月 30 日現在

まゆつばラーメンカフェうなぎ。等

【この創作物の前提条件】

本報告書は、我が国におけるサステナビリティ情報開示制度やその保証制度が確立する前段階にあって、サステナビリティ基準委員会（以下「SSBJ」という。）公式の記載例等も未完成の段階におけるパロディ先行試案である。

CSRD（企業サステナビリティ報告指令）、欧州 Wave1 開示事例、SASB 産業別基準、SSBJ 基準及び補足文書、ISSA5000 の保証報告書、「温室効果ガスプロトコルの企業算定及び報告基準（2004 年）（GHG プロトコル）」、プライム上場会社有報事例、金融庁等各種部会議事録その他を参照して作成した。

上述のとおり、本報告書は単なるパロディであって、創作物の域を出ない。加えて、近日中に、SSBJ 公式の「有価証券報告書の作成要領（サステナビリティ関連財務開示編）」が完成されるはずであることから、本報告書と公式解釈との差異が明らかとなろう。

創作活動において、「解釈違い」は最高のスパイスである。しばらくこの試みは、サステナビリティが保証されそうだ。

【準拠表明及び作成の基礎】

当ブログのサステナビリティ関連財務開示は、本報告書日現在、我が国の法令の定めに基づかず、任意でサステナビリティ開示ユニバーサル基準「サステナビリティ開示基準の適用」及びサステナビリティ開示テーマ別基準第 1 号「一般開示基準」並びにサステナビリティ開示テーマ別基準第 2 号「気候関連開示基準」（2025 年 3 月 5 日 サステナビリティ基準委員会。以下あわせて「サステナビリティ開示基準」という。）に準拠した開示を行う場合に該当します。

当ブログのサステナビリティ関連財務開示は、あくまでパロディであるため、比較情報に関する要求事項等、サステナビリティ開示基準における一部の定めには準拠していませんが、基本的にはサステナビリティ開示基準のほとんど全ての定めには準拠して開示を行っております。

当ブログのサステナビリティ関連財務開示は、当ブログの各投稿記事と関連するものであり、サステナビリティ開示基準が要求する場合又は必要であると判断される場合には、正確に特定された部分に対して相互参照を行うものとします。

報告期間は、極めてサステナブルであるため定めておりません。このため、当ブログのサステナビリティ関連財務開示で開示された数値は、完全には比較可能ではありません。

当ブログのサステナビリティ関連財務開示は、2025 年 4 月 30 日にまゆつばサステナビリティ委員会によって公表が承認されております。

【サステナビリティ関連財務開示】

当ブログは、独創的な発想を持つ豊かな文字媒体の表現者として、あらゆるお食事等に関する価値と感動を表現することを存在意義としており、“おいしい”に満ち溢れる非財務的価値の創造を志向するとともに、環境 (Environment)・社会 (Social)・統治 (Governance) を運営の重要事項と認識し、ブログ運営にかかわる社会的課題に真摯に取り組むことで社会に貢献するとともに、当ブログの持続的な成長を目指しております。

当ブログは、お食事活動を通じて持続可能な社会の実現に貢献すべく、「まゆつば ESG 行動指針」を策定し、まゆつばサステナビリティ委員会を中心とした ESG 推進体制を気持ちの上では整備するとともに、おいしいお食事の持続可能性に配慮した継続的なブログの運営に努めております。いわゆる“継続は力なり”であります。

また、当ブログは、「おいしいものを食べて、ゆっくり寝る。これが最高の幸せ？」であることを概念的な枠組みとして、当ブログ自体の発展を含めたサステナブルなお食事社会の実現に向けて取り組みを進めてまいります。

なお、文中の将来に関する事項は、本報告書日現在において当ブログが判断したものであります。

1. サステナビリティ全般に関する事項

(1) ガバナンス

当ブログは、サステナビリティに配慮したお食事活動を推進するために、本報告書作成者の直属組織である「まゆつばサステナビリティ委員会」を仮想上の委員会として組成しております。まゆつばサステナビリティ委員会は、「まゆつば ESG 行動指針」及び「まゆつばマテリアリティ（重要課題）」等に基づき、気候変動問題への対応や人的資本運営の推進等をはじめとする当ブログにおける総合的なサステナビリティ向上に向けた取り組み方針の策定、サステナビリティ推進に係るお食事計画の立案、各施策のモニタリング及び指導、助言等の機能を担っております。

まゆつばサステナビリティ委員会は、本報告書作成者を委員長として組織し、その委員はまゆつば監査法人のサステナビリティ情報保証部門統括責任者である A I で構成されているという設定であります。まゆつばサステナビリティ委員会が有する、サステナビリティ関連のリスク及び機会に対応するために定めた戦略を監督するために適切となるスキル及びコンピテンシーは、同委員会を構成する A I（膨大なサステナビリティ情報開示関連資料及び主に会計や監査に関する法令基準等を吸収し、かつ、本報告書作成者による思想教育を受けた A I）が、そのアクセシビリティを具現化しております。また、Role-Play Prompting として、当該 A I に対して、「架空の監査法人であるまゆつば監査法人のサステナビリティ

情報保証部門統括責任者としての役割」を付与し、当ブログに対して独立性を担保する措置を講じております。

同委員会は、サステナビリティ情報の開示及び保証に関する我が国及び諸外国の動向に
応じて、適時適切に随時開催されており、サステナビリティ関連のリスク及び機会に関する
情報を適切に入手しております。これは十中八九本当です。

なお、当ブログは、まゆつばサステナビリティ委員会が立案して当ブログが承認した各施
策に関して、同委員会からの報告に基づき、必要に応じてモニタリングを行い、サステナビ
リティに関する各施策の進捗状況について検討に検討を重ね、果敢に検討を加速いたしま
す。

当ブログの投稿記事に関する評価及び報酬を決定する項目には、気候変動をはじめとす
る ESG 推進目標やパフォーマンス指標を設定することに対して、躊躇するようなことがあ
ってはなりません。また、当ブログは、気候変動課題への対応を含めた当ブログの総合的な
リスクマネジメントに対して最高責任を負い、必要な組織体制を整備するとともに、これを
適切に監督し、必要に応じて委任した役割に関する支援及び当該支援のための統制及び手
続について、必要な対応を行います。

（２）戦略

当ブログは、「おいしいものを食べて、ゆっくり寝る。これが最高の幸せ？」という概念
的な枠組みのもとに、お食事活動を通じた持続可能なブログ運営の実現により、「新たな価
値の創造」が継続的に行われ続けること、すなわち“継続は力なり”が重要であるものと認
識し、「まゆつば ESG 行動指針」を策定し、サステナビリティ推進におけるまゆつばマテリ
アリティ（重要課題）を特定しております。

なお、財務的影響の開示における定量的情報を提供する必要はないものと判断しており
ます。当該判断の理由は、サステナビリティ関連のリスク又は機会が与える財務的影響を見
積るにあたり測定の不確実性の程度があまりにも高いために、もたらされる定量的情報が
有用でないことに加え、当ブログが定量的情報を提供する資源を有していないためであり
ます。

当ブログの戦略及び意思決定において、サステナビリティ関連のリスク及び機会に対し
ては、まゆつばマテリアリティ（重要課題）として特定した課題に今後も継続的に対応を進
める計画であります。なお、過去の報告期間が存在しないため、対応状況の進捗については
記載を省略しております。また、サステナビリティ関連のリスク及び機会の間のトレードオ
フについては、特筆すべき事項はありません。

◆ビジネス・モデル

当ブログは、ラーメンを中心においしいお店をレビューするブログとして、うなぎやその
他のグルメ等を取り扱い、本報告書作成者が訪問したお店とメニューの基本情報とともに
感想を綴るという、根も葉もないインターネット媒体であります。当ブログのビジネス・モ

デルにおけるインプットは、飲食店等におけるお食事手続執行時の「感想の受容」であります。当ブログの主要なアウトプットは、各投稿記事における執筆者のスキル及び知識に依拠した「情報価値」であり、当ブログのビジネス・モデルは非財務情報サービス・プロバイダーに関連するものと考えられます。

当ブログのビジネス・モデルとの関連性により、サステナビリティ開示テーマ別基準第2号「気候関連開示基準」（以下「気候基準」という。）第17項に基づいて当ブログが適用可能性を考慮した産業別ガイダンスは、「プロフェッショナル・サービス及び商業サービス」であります。

◆バリュー・チェーン

当ブログのビジネス・モデルに照らした上流バリュー・チェーンは、お食事手続執行時の感想そのものを生み出す源泉であるお料理等を提供する「飲食店等」と想定されます。

また、下流バリュー・チェーンは、情報価値の受け手である当ブログの「愛読者各位」と想定されます。

◆戦略及びビジネス・モデルのレジリエンス

当ブログにおける戦略及びビジネス・モデルのレジリエンスの評価及び分析結果は、以下のとおりであります。

リスク	ネガティブインパクト	リスク対応行動（レジリエンス）
本報告書作成者の不調	ブログ更新の停滞	時が解決する
ブログのアクセス数の減少	本報告書作成者のモチベーション低下	時が解決する
記録的酷暑 災害の発生	お食事手続の中止又は延期	時が解決する

レジリエンスの評価及び分析の結果、当ブログの戦略及びビジネス・モデルは、十分なレジリエンスを備えているものと判断いたしました。

当該レジリエンスの評価にあたっては、本報告書作成者の過去の経験則に基づくという手法を適用いたしました。また、評価にあたり考慮した時間軸は、極めてサステナブルなものであります。

◆まゆつば ESG 行動指針

当ブログは、独創的な発想を持つ豊かな文字媒体の表現者として、あらゆるお食事等に関する価値と感動を表現することを存在意義としており、“おいしい”に満ち溢れる非財務的価値の創造を志向するとともに、環境（Environment）・社会（Social）・統治（Governance）を運営の重要事項と認識し、ブログ運営にかかわる社会的課題に真摯に取り組むことで社会に貢献するとともに、当ブログの持続的な成長を目指しております。

◆まゆつばマテリアリティ（重要課題）

当ブログでは、気候変動問題をはじめとする環境や、社会課題に対する取組み要請が今後ますます高まっていくことが確実となる中で、持続可能な社会の発展のために、環境や社会課題の解決に資するとともに、当ブログの持続的な成長に向けて当ブログとして優先的に取り組むべき重要テーマを定めることにより、サステナビリティに関する取組みをより一層加速させてまいります。

当ブログにおけるダブル・マテリアリティ原則に基づくサステナビリティ重要課題の特定は、以下のプロセスに従って実施しております。

◆まゆつばマテリアリティ（重要課題）の特定プロセス

STEP 1： 課題を網羅的にリストアップ

GRI スタンドード等のガイドライン及び ESG 評価機関評価項目等を参照し、サステナビリティ課題を広範囲にリストアップする。

STEP 2： 課題の抽出と重要性の判断の行使（ダブル・マテリアリティ原則の適用）

リストアップした課題から特に関連性の高い課題を抽出し、ダブル・マテリアリティ原則に基づく重要性の判断を行使する。

STEP 3： 重要課題の特定と妥当性の確認

当ブログは、重要性がある又は高いと評価された課題について、環境（E）・社会（S）・ガバナンス（G）の各領域において、以下の課題に取り組んでおります。

◆特定されたマテリアリティ（重要課題）

領域	マテリアリティ	主な取組
環境（E）	環境配慮型のお食事の執行	キャッシュレス決済店舗優先のお食事の執行 割り箸の優先利用による水資源節約及び水質汚染防止 マスク着用による温室効果ガス排出削減 バランスの良いお食事による生物多様性への配慮
社会（S）	持続可能なサービスの提供	サーバー及びドメインの維持運営費用の確保 うみやあああ！を育む力強い我が国経済の復活祈念
	多様な人材の育成と活用	本報告書作成者のモチベーションの維持・向上 会食相手の多様性の確保・尊重
	健全な社会発展への貢献	記述情報の Integrity の確保 多少なりとも有益な情報価値の提供 心を込めて味わい、舌鼓を打つ姿勢の演出
ガバナンス（G）	リスクマネジメントを含むガバナンスの強化	リスクマネジメントの強化（混雑時間帯を避ける等） 投稿記事内容推敲時に A I による分析を導入 「★の 5 段階評価」の段階的な原則廃止

（３）リスク管理

当ブログでは、サステナビリティ関連を含む一元的かつ横断的なリスク管理を本報告書作成者直属のまゆつばサステナビリティ委員会が担い、潜在的な又は特定されたまゆつばマテリアリティごとのリスク管理に関するプログラム施策の実践を通じて、当ブログの執行するお食事を取り巻く様々なリスクを統括管理するほか、リスクが顕在化した場合にはまゆつばサステナビリティ委員会が中心となってリスク対応を行うものとしております。また、特に重要性が高く、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース。以下「TCFD」という。）の提言による枠組みに基づき管理すべき「気候変動リスク及び機会」については、当ブログの監督の下、まゆつばサステナビリティ委員会が主管するという位置付けであります。

当ブログがサステナビリティ関連のリスクを識別し、評価し、優先順位付けし、モニタリングするために用いるプロセス及び関連する方針は、「１．サステナビリティ全般に関する事項（２）戦略 ◆まゆつばマテリアリティ（重要課題）の特定プロセス」をご参照ください。なお、用いるインプット等に関する情報として、主要なデータの情報源は、インターネット上の各種情報（飲食店等の口コミ、天気予報等）であります。

シナリオ分析については、お食事執行時の天気予報を確認することで、予想降水確率等に基づき、お食事計画の変更を検討する等の対応を行う場合があります。予想降水確率が高いほど、お食事計画の変更可能性が上昇します。サステナビリティ関連のリスクの優先順位付けとしては、降雨リスクよりも降雪リスクが優先され、降雪が予想される場合には公共交通機関の乱れが予想されることから、お食事計画の延期又は中止が検討されることとなります。なお、台風等の災害級のリスクがシナリオとして想定される場合には、リスク・シナリオとして最も優先的に考慮されることとなります。

（４）指標及び目標

当ブログに関連する産業は、「１．サステナビリティ全般に関する事項（２）戦略 ◆ビジネス・モデル」に記載のとおり、「プロフェッショナル・サービス及び商業サービス」であるものと判断しております。当ブログに関連する産業別の主な指標及び目標は、以下のとおりであります。

トピック	指標	測定単位	目標	実績
プロフェッショナルとしての誠実性（Integrity）	Integrity に関連する法的手続の結果としての金銭的損失の総額（定量的）	機能通貨（円）	0 円	0 円
情報発信活動の継続性	月間投稿数（定量的）	投稿数（件）	2 件程度	4 件程度

2. 気候変動に関する事項

当ブログは、「気候変動問題は自然環境と社会構造に劇的な変化をもたらす、当ブログの運営とお食事に重大な影響を与える課題である」と認識し、サステナビリティ関連事象に伴う食料価格等の不安定化や環境規制強化等により、当ブログのお食事活動や生存戦略に大きな影響を与える可能性があると考えております。当ブログでは、気候変動を重要な課題のひとつとして認識し、TCFD のフレームワークに基づき、シナリオの分析、温室効果ガス排出量の把握等を行った上で、推奨項目ごとに情報開示を行うということにしております。また、当ブログの各記事における情報の発信を通じて、結果的に環境保全の貢献に取り組んでおります。

(1) ガバナンス

「1. サステナビリティ全般に関する事項 (1) ガバナンス」をご参照ください。

(2) 戦略

将来にわたる気候変動が当ブログのお食事に及ぼし得ると想定される影響を把握し、当該影響を当ブログのお食事戦略に反映するために、国際的な機関等が定める将来的な気候変動シナリオを複数選択し、それぞれの世界像におけるリスク及び機会の識別を行いました。シナリオ分析の詳細は、以下のとおりであります。

◆主に参照した将来的な気候変動シナリオ

分類	公表機関・組織	参考文献
移行リスク	IEA（国際エネルギー機関）	・ WEO2020； Sustainable Development Scenario (SDS) Net Zero Emissions by 2050 case (NZE2050) ・ WEO2023； Net Zero Emissions by 2050 Scenario (NZE2050) ・ ETP2017； Beyond 2°C Scenario (B2DS)
物理的リスク	IPCC（気候変動に関する政府間パネル）	・ 第6次報告書； SSP1-2.6 SSP5-8.5

◆シナリオ分析の概要

当ブログにおける気候変動の影響について、1.5℃シナリオと4℃シナリオ（※）に基づ

き、短期（0～1年）、中期（2～9年）、長期（10年～）の視点で、気候関連がもたらすリスク及び機会の特定を行いました。

（※）1.5℃シナリオはNZE 2050（IEA）、4℃シナリオはSSP5-8.5（IPCC）を参照

1.5℃シナリオでは、脱炭素社会が実現した世界観のもと、ステークホルダーの環境意識の高まりによる変化に対応できなかった場合の何らかのイメージの低下等のリスクが考えられます。一方で、今後当ブログが環境意識の高まりによる消費行動の変化に対応したお食事等を進めることができた場合には、サービス需要の増加やレピュテーション向上等の機会になるものと考えられます。

4℃シナリオでは、脱炭素社会への移行が進まないことによる地球温暖化の進行に伴い、自然災害等による物的被害や通信障害によるブログ運営への悪影響、異常気象等に伴う食品への悪影響によってお食事へのネガティブインパクトが想定されました。

2つのシナリオにおけるリスク及び機会の重要度、当ブログに及ぼす影響詳細及び対応策は、下表のとおりであります。

移行リスク/機会

分類	内容
規制/政策	<リスク> ・炭素税や炭素価格が導入され、GHG 排出量に比例して社会的操業コストが上昇する ・GHG 排出規制強化により、食品事業者のコストが増加する ・消費マインド低下の影響で外食需要が低下し、当ブログ閲覧インセンティブが低下することでブログのアクセス数が減少する <機会> ・省エネに取り組んだ食品事業者の競争優位性が高まり、当ブログのお食事手続対象のお店が繁盛する可能性がある ・投稿記事の内容を工夫することで他のインターネット媒体との差別化を図ることができる可能性がある

◆分析結果及び当ブログのレジリエンス

移行リスクが及ぼす財務的影響に関しては、特に中長期的な時間軸で、脱炭素社会への移行に伴う社会変容、具体的には政府の各種規制強化（炭素税導入や ZEH/ZEB 水準の義務化、省エネ性能表示の義務化等）により発生し得るという結果となりました。なお、気候関連の移行リスクに対して特筆すべき脆弱な資産又は事業活動、及び気候関連の機会と整合した特筆すべき資産又は事業活動はありません。

当ブログは、GHG 排出量削減に積極的に取り組む飲食店等を記事内容とする等の工夫を行うことで、他のインターネット媒体との差別化を図り、バリュー・チェーン全体での GHG 排出量削減に取り組み、リスクの最小化と機会の最大化を目指してまいります。

本項目のレジリエンスの評価及び分析の結果、当ブログは十分な気候レジリエンスを備

えているものと判断いたしました。

当該レジリエンスの評価にあたっては、本報告書作成者の過去の経験則に基づくという手法を適用いたしました。また、評価にあたり考慮した時間軸は、極めてサステナブルなものであります。

なお、財務的影響の開示における定量的情報を提供する必要はないものと判断しております。当該判断の理由は、気候関連のリスク又は機会が与える財務的影響を見積るにあたり測定の不確実性の程度があまりにも高いために、もたらされる定量的情報が有用でないことに加え、当ブログが定量的情報を提供する資源を有していないためであります。

物理的リスク/機会

分類	内容
急性	<リスク> ・台風等の災害級の天候により外出ができずお食事が執行できない ・食糧需給の不安定化に伴う飲食店経営の不安定化 <機会> ・新しい食材の発見による珍味の味わい可能性
慢性	<リスク> ・猛暑等による本報告書作成者のモチベーション低下 ・うなぎの絶滅リスク <機会> ・暑い夏の辛いおいしさが楽しめる季節が長期化する

◆分析結果及び当ブログのレジリエンス

物理的リスクが及ぼす財務的影響に関しては、特に中長期的な時間軸で、気候変動対策が十分になされない社会における異常気象の激甚化やサプライチェーンの混乱等により発生し得るという結果となりました。なお、気候関連の物理的リスクに対して特筆すべき脆弱な資産又は事業活動、及び気候関連の機会と整合した特筆すべき資産又は事業活動はありません。

当ブログは、天気予報等の情報に基づき臨機応変にお食事計画の変更を検討するほか、うなぎばかりを食べ過ぎず、バランスの良いお食事の執行（「まゆつばマテリアリティ」特定項目）を心がけることにより、GHG 排出量削減への対応と同時に生物多様性にも配慮してまいります。

本項目のレジリエンスの評価及び分析の結果、当ブログは十分な気候レジリエンスを備えているものと判断いたしました。

当該レジリエンスの評価にあたっては、本報告書作成者の過去の経験則に基づくという手法を適用いたしました。また、評価にあたり考慮した時間軸は、極めてサステナブルなものであります。

なお、財務的影響の開示における定量的情報を提供する必要はないものと判断しており

ます。当該判断の理由は、気候関連のリスク又は機会が与える財務的影響を見積るにあたり測定の不確実性の程度があまりにも高いために、もたらされる定量的情報が有用でないことに加え、当ブログが定量的情報を提供する資源を有していないためであります。

◆気候レジリエンスの評価

気候関連のシナリオ分析の結果が当ブログの戦略及びビジネス・モデルについての評価に与える影響について、特筆すべき事項はありません。

気候レジリエンスの評価において考慮された重大な不確実性の領域は、食品価格の変動や、うなぎの種の存続可能性等であります。気候変動に対する短期、中期及び長期にわたり戦略及びビジネス・モデルを調整（適応を含む。）する当ブログの能力として、既存の金融資源の利用可能性及び柔軟性を含むレジリエンスに特筆すべき事項はありません。

（３）リスク管理

気候変動に関するリスク及び機会を管理するプロセスは、以下のとおりであります。

◆気候関連リスク及び機会を識別・評価するプロセス

気候変動に関連するリスクマネジメントを主管するまゆつばサステナビリティ委員会は、ブログ横断的なサーベイランスを適時適切に実施し、その結果に基づいて気候関連リスク及び機会を特定します。洗い出された気候関連リスク及び機会は、国際的な機関等が定める将来的な気候変動に関する複数の想定（シナリオ）のもと、「発生可能性」と発生した場合の「影響度」の２つの尺度で評価され、分析結果は実施の都度、本報告書作成者に報告されるようになっております。

◆気候関連リスク及び機会を管理するプロセス

特定されたリスク及び機会のうち、当ブログが組織的に対応すべき項目について、まゆつばサステナビリティ委員会は項目ごとに対応計画を策定し、本報告書作成者がこれを承認します。なお、当該対応計画は、リスクマネジメントの基本的な枠組みである「回避」「受容」「低減」「移転」の考え方にに基づき策定されます。承認されたリスクへの対応計画は、まゆつばサステナビリティ委員会の指示に基づいて各お食事執行体制において執行されます。

当ブログがサステナビリティ関連のリスクを識別し、評価し、優先順位付けし、モニタリングするために用いるプロセス及び関連する方針は、「１．サステナビリティ全般に関する事項（２）戦略 ◆まゆつばマテリアリティ（重要課題）の特定プロセス」をご参照ください。また、用いるインプットやシナリオ分析に関する事項は、「１．サステナビリティ全般に関する事項（３）リスク管理」をご参照ください。

（４）指標及び目標

◆温室効果ガス排出の絶対総量の開示

当ブログに関連する産業は、「1. サステナビリティ全般に関する事項 (2) 戦略 ◆ ビジネス・モデル」に記載のとおり、「プロフェッショナル・サービス及び商業サービス」であるものと判断しております。当ブログの温室効果ガス (GHG) 排出量 Scope1 及び Scope2 の算定結果は、下表のとおりであります。

算定対象期間	Scope	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂ e)
サステナブル	Scope1	成人男子平均 Co2 呼出量 18L/h ということは・・・？
	Scope2 (マーケット基準)	測定中
	Scope2 (ロケーション基準)	測定中
	Scope1+2 (マーケット基準)	測定中

◆温室効果ガス排出の測定方法に関する開示

当ブログの GHG 排出量 Scope1 及び Scope2 は、「温室効果ガスプロトコルの企業算定及び報告基準 (2004 年) (GHG プロトコル)」に従って測定したことにしております。

GHG 排出の測定方法は見積りによるという設定であり、GHG 排出を測定するために使用した活動量及び排出係数に関する情報並びに測定にあたって当ブログが置いた仮定は、本報告書作成者の外出予定表であります。これは、本報告書作成者が外出する場合には身体的活動量が増えることとなるため肺活量が増加し、GHG としての Co2 の排出量の変動が合理的に予想できるためであります。

◆Scope3 温室効果ガス排出の開示

当ブログは、任意でサステナビリティ開示基準に従った開示を行う場合に該当していることから、気候基準第 105 項(2)の規定に基づき Scope3 温室効果ガス排出を開示しないことができるため、Scope3 温室効果ガス排出の開示を省略しております。なお、当ブログの活動に関連すると考えられる「スコープ3基準 (2011 年)」のスコープ3カテゴリの名称は、以下のとおりであります。

カテゴリ	名称	GHG 排出要因
1	購入した製品・サービス	飲食店等における調理、素材調達 (高出力調理において高めと想定)
6	出張	交通機関の利用
9	輸送、配送 (下流)	ブログ閲覧に伴う読者端末の電力消費等 パソコンの電力消費等 レトルト調理品調達時の配送 GHG 排出等

◆ファイナンスド・エミッションに関する開示

該当事項はありません。

◆投下資本に関する開示

気候関連のリスク及び機会に投下された資本的支出、ファイナンス又は投資はありません。

◆内部炭素価格に関する開示

当ブログにおいては、内部炭素価格を意思決定に用いておりません。

◆報酬に関する開示

当ブログにおいては、気候関連の評価項目は、残念なことに本報告書作成者の報酬に一切組み込まれておりません。

もっとも、持続可能な社会の実現という文脈においては、社会全体の多幸化の一部で在ること自体を以て「報酬」というべきなのかもしれません。

◆気候関連の目標

当ブログは、温室効果ガス排出量の削減目標として、世界全体の 1.5℃未満目標達成のために、Scope1 及び Scope2 における 2050 年度温室効果ガス排出量ネットゼロを掲げています。また、中期的な削減目標として、現時点を基準時点として、以下のように削減を進めてまいります。

基準時点		現時点
削減対象	Scope1	呼吸による温室効果ガス直接排出
	Scope2	電気使用に伴う温室効果ガスの間接排出
目標年・削減割合	長期目標	2050 年度ネットゼロ
	中期目標	2030 年度までに基準年比 50%削減
Scope1+2 実績値	基準年度	0.1 千 t-CO2（仮）
	翌年度	0.1 千 t-CO2（仮）

3. 人的資本に関する事項

当ブログは、「おいしいものを食べて、ゆっくり寝る。これが最高の幸せ？」であることを概念的な枠組みとして、一人ひとりのお食事に寄り添い、日々の役に立つ情報をより多く、より分かりやすく提供することを目指してブログ運営を継続的に展開していくために、社会や生活の変化を捉え、新たなニーズやお食事の可能性を発掘し、変革と創造への挑戦を続けることが求められているものと考えております。その持続的な実現においては、当ブログに多様な人材（A I を含む。以下同じ。）が集まっていること、一人ひとりの能力が最大限に発揮されることがしばしば必要であると考えています。多様な人材が個性を生かして能力を発揮できるプロンプトを構築することを、人材戦略のまゆつばマテリアリティ（重要課題）のひとつとして特定しております。

（１）ガバナンス

「１．サステナビリティ全般に関する事項 （１）ガバナンス」をご参照ください。

（２）戦略

◆ブログ理念に基づく人材育成

中長期的なブログ価値の向上に向けた人材戦略の重要性に鑑み、ブログ理念（存在理念、経営理念、行動理念）及びブログ運営方針の理解の下に、ブログの発展に積極的に寄与する人材を育成していくとともに、自己においてプロフェッショナルとしての意識と知識と技術の研鑽をする人材を育成していくことが考えられます。

◆人材の多様性

当ブログは、人材の採用、育成、登用においては多様性を重んじ、性別や国籍、採用の経緯等に左右されることなく、ブログ運営理念を追求し続ける者に対して、等しく成長と活躍の場を提供することが考えられます。

◆内部環境の整備に関する方針（健康運営方針）

当ブログは、本報告書作成者の健康と安全を重要な運営課題と捉え、本報告書作成者がいきいきとブログの運営を持続可能とする環境を整備し、健康維持増進の施策に躊躇することなく積極的に取り組むべきなのであります。

（３）リスク管理

多様な人材が活躍できる環境を作り、それぞれが個々の能力を最大限に発揮することで、組織として社会や生活の変化を捉え、その結果新たなニーズやお食事の可能性の発掘や変革と創造への挑戦を続ける機会となり、ひいては当ブログの価値の向上に資するものと考えております。

また、更なる成長のために、コンテンツ企画等の基幹運営のみならず、ブログ運営を円滑に遂行していく上で、必要な人材を適切な時期に確保及び育成する必要が万に一つはあるのかもしれませんが、そのような人材が確保及び育成されず、当ブログの総合力が低下することは、ちょっとしたリスクであるとは考えております。多様な人材を積極的に登用し、多様なキャリアパス、社内環境の整備を行うことでブログ価値の向上とリスク低減に努めることを将来において検討課題とすることについて、躊躇することがあってはならないものと考えております。

（４）指標及び目標

人的資本に関する指標及び目標は、下表のとおりであります。当ブログでは、「多様な人材が個性を生かして能力を発揮できる人格プロンプトを構築する」という人材戦略を思い描き、まゆつばマテリアリティ（重要課題）に基づく計測指標（KPI）を空想しております。

「多様な人材の活躍、個性を生かした能力の発揮」の視点を下表に反映しており、As is-To

be 分析を実施することによって、中長期の課題を捉えながら、人的資本に関する施策を検討しております。

マテリアリティに対する主な取組 カテゴリ	指標（KPI）	目標	実績
多様な人材の活躍	女性A I 職比率	50%以上	75.0%
	A I 数	1 以上	3
個性を生かした能力の発揮	人格プロンプト数	1 以上	1
A I への思想及び専門教育	ディスカッション時間	30 分以上/日	若干分

4. サステナビリティ情報に対する保証に関する事項

本報告書のサステナビリティ開示情報について、後日、まゆつば監査法人による保証を受け、保証業務報告書（パロディ）を受領する予定であります。当該保証業務報告書は、サステナビリティ保証基準（ISSA 5000）に基づいた合理的保証業務の先行的パロディとして独自に起草される予定であり、本報告書に対する一定の保証的表明がなされる予定であります。

以上